

平成13年 8月28日  
気象庁 気候・海洋気象部

## 配信資料に関する技術情報（気象編）第91号

—平成14年3月からの1か月予報電文形式の変更について—

気象庁では、1か月予報について、数値予報モデルの高度化を反映した内容に改善するため、平成14年3月から電文形式を変更する予定です。つきましては、利用者みなさまには必要となる対応の準備方よろしくお願いいたします。

変更は下記の通り実施する計画ですが、対象は1か月予報（全般1か月予報・地方1か月予報）のみで、3か月予報や暖候期予報・寒候期予報には変更ありません。

### 記

#### 1. 変更の実施予定日

平成14年3月1日

#### 2. 1か月予報電文の主な変更点

新しい予報電文形式では、はじめに一般的・概要的な情報を平文で分かりやすく記述し、その後により専門的・詳細な確率情報を配置しています。新たに設ける事項および今回廃止する事項は次の通りです。

- ・ <特に注意を要する事項>を設け、少雨や高温・日照不足など、平年と大きく異なる天候や顕著な天候が予想された場合に、電文の冒頭で注意を喚起します。また、これらの現象が続いている場合には、今後も継続するか解消に向かうか等についても記述します。
- ・ <予想される向こう1か月の天候>を設け、天気日数の特徴（“平年に比べて雨の降る日が多い”など）や、気温・降水量などの特徴を含めた、向こう1か月の天候の概要について記述します。また、週別の気温予想についても平文で記述します。
- ・ 週別の気温予報を従来の階級表現（「高い」・「並」・「低い」）から各階級の確率表現に変更します。これにより同じ「高い」予報でも、どの程度の可能性で「高い」になると予報しているのかが分かります。
- ・ 予報の対象期間の日付を明記します。
- ・ <概要>・<可能性の大きな気温経過>・<天候の特徴>については廃止します。

なお、新しい電文形式の詳細は別紙を参照願います。

## 別紙

### 1 か月予報の電文形式について

#### 1. 季節予報のデータ種類コード

全般季節予報および地方季節予報の通報に用いるデータ種類コードは、それぞれ ㊦01 および ㊦02 とする。

2 バイトコード文字の電文（仮名漢字電文）を用いて通報する。

#### 2. 電文で使用する文字

電文において、本文では全て 2 バイトコード文字を使用し、本文以外では 1 バイトコード文字を使用する。

以下では、「▽」と記されたところでは必ず 1 回以上の改行を行い、「□」と記されたところでは 1 つ以上の空白を含める。また記述することが指定された単語では、その途中で改行・空白等の文字を挿入しない。

#### 3. 1 か月予報本文の通報形式

以下、全般 1 か月予報・地方 1 か月予報の形式は同じとする。1 か月予報本文の通報形式は、次の事項で構成する。

(1)	標題行	予報の種類を示す
(2)	予報期間行	予報期間の年月日を示す
(3)	発表年月日行	発表年月日を示す
(4)	発表官署行	発表官署を示す
(5)	予報種別行	「<向こう 1 か月>」を記載
(6)	注意行	注意を要する天候や顕著な天候、もしくはそれらの継続が予想された場合など、必要に応じて記す。必要がなければ、この行は含めない
(7)	天候の概要行	向こう 1 か月の天候の概要と確率予報について平文で記す。
(8)	確率行	1 か月平均の確率予報と週別（1・2・3～4 週別など）の確率予報を示す
(9)	予報対象期間行	週別（1・2・3～4 週別など）の予報対象期間を示す
(10)	発表予定行	次回季節予報発表日等を示す

#### 4. 1 か月予報本文の構成

各行の取り扱いは以下のとおりとする。

##### (1) 標題行

「地方予報区名□ 1 か月予報▽」とする。地方予報区名には別表中の「地方予報区名」のいずれかを用いる。ただし、九州北部地方予報区に限り、地方予報区名を「九州北部地方（山口県を含む）」とする。

なお、「予報区」という言葉は省略する。また、全般季節予報の場合には「全般□ 1 か月予報▽」とする。

【例】北海道地方□ 1 か月予報▽

##### (2) 予報期間行

「予報期間□」に続けて、予報期間の月日を示す。

【例】 予報期間□7月20日から8月19日▽

(3) 発表年月日行

「発表年月日▽」とする。ただし発表年は元号を用い、月日の表示は「月」・「日」を用いる。

【例】 平成15年7月19日▽

(4) 発表官署行

「発表官署□発表▽」とする。発表官署名には別表中の「発表官署」中のいずれかを用いる。ただし、気象庁本庁の場合には、「気象庁□気候・海洋気象部□発表▽」とする。

【例】 「札幌管区気象台□発表▽」

(5) 予報種判別行

「<向こう1か月>▽」とする。

(6) 注意行

「<特に注意を要する事項>▽」とし、その内容を平文で記述して改行する。記述の必要がない場合には、この行は含まれない。

【例】

<特に注意を要する事項>▽

北海道地方では6月下旬以降、雨の少ない状態が続いていますが、向こう▽  
1か月も降水量が平年を上回る可能性は小さく、雨の少ない状態は当分続く▽  
見込みです。▽

(7) 天候の概要行

「<予想される向こう1か月の天候>▽」とし、可能性の大きな向こう1か月の天候の経過を記述して改行する。

【例】

<予想される向こう1か月の天候>▽

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

向こう1か月は平年に比べて晴れる日が多いでしょう。また、期間の前半▽  
を中心に、気温は高い見込みです。▽

(8) 確率行

「<確率>▽」とし、次に「期間□要素□地域□低・少□平年並□高・多%▽」として、以下の順で予想される各階級の確率を示す。

期間□要素□予報対象地域□低い(少ない) 確率□平年並の確率□高い(多い) 確率▽

ただし、要素名は気温・降水量・日照時間・降雪量のいずれかを、予報対象期間は、1か月・1週目・2週目・3~4週目のいずれかを用いる。予報対象地域名は別表中の「予報対象地域名」のいずれかを用いる。また、「確率」は%単位とする。

【例】

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□平年並□高・多%▽
1か月□	気温□	北海道地方□	20□30□50▽
1か月□	降水量□	北海道日本海側□	10□30□60▽
1か月□	降水量□	北海道オホーツク海側□	20□50□30▽

1か月	降水量	北海道太平洋側	20	40	40
1か月	日照時間	北海道日本海側	20	40	40
1か月	日照時間	北海道オホーツク海側	20	40	40
1か月	日照時間	北海道太平洋側	20	30	50
▽					
1週目	気温	北海道日本海側	20	30	50
1週目	気温	北海道オホーツク海側	10	30	60
1週目	気温	北海道太平洋側	20	30	50
2週目	気温	北海道地方	20	30	50
3～4週	気温	北海道地方	20	40	40

(9) 予報対象期間行

「<予報の対象期間>▽」とし、

予報期間□：予報対象期間初日の日付（曜日）～予報対象期間終日の日付（曜日）▽

の順で、週別予報期間の日付を表示する。ただし、予報期間名では、1か月・1週目・2週目・3～4週目のいずれかを用いる。

予報対象期間の初日・終日の月・日表示には2桁使用する。1桁の月・日の場合、数値は1の位に表示し、10の位はスペースとする。

曜日は漢字一文字で記述する。

【例】

<予報の対象期間>▽

1か月□：7月20日（土）～8月19日（月）▽

1週目□：7月20日（土）～7月26日（金）▽

2週目□：7月27日（土）～8月2日（金）▽

3～4週目□：8月3日（土）～8月16日（金）▽

(10) 発表予定行

「<次回発表予定等>▽」とし、続いて次回季節予報発表日等を平文で記述し、改行する。

【例】

<次回発表予定等>▽

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月26日▽

3か月予報：7月22日（月） 14時00分▽

＜＜ 別表 ＞＞

(1) 地方季節予報電文で用いる地方予報区名や予報対象地域に含まれる都道府県など

地方予報区名(発表官署)	予報対象地域名	予報対象地域に含まれる都道府県(支庁)
北海道地方予報区 (札幌管区气象台)	北海道地方	北海道
	北海道日本海側	上川・留萌・石狩・後志・空知・檜山の各支庁および宗谷支庁の北部
	北海道オホーツク海側	宗谷支庁の南部および網走支庁
	北海道太平洋側	渡島・胆振・日高・十勝・釧路・根室の各支庁
東北地方予報区 (仙台管区气象台)	東北地方	青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島の各県
	東北地方日本海側	青森(津軽地方)・秋田・山形・福島(会津地方)の各県(各地方)
	東北地方太平洋側	青森(下北・三八上北地方)・岩手・宮城・福島(中通り・浜通り地方)の各県(各地方)
	東北北部	青森・秋田・岩手の各県
	東北南部	山形・宮城・福島の各県
関東甲信地方予報区 (気象庁本庁)	関東甲信地方	栃木・群馬・埼玉・茨城・千葉・東京・神奈川・長野・山梨の各都県
東海地方予報区 (名古屋地方气象台)	東海地方	静岡・岐阜・三重・愛知の各県
北陸地方予報区 (新潟地方气象台)	北陸地方	新潟・富山・石川・福井の各県
近畿地方予報区 (大阪管区气象台)	近畿地方	京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀・和歌山の各府県
	近畿日本海側	京都府北部・兵庫県北部・滋賀県北部
	近畿太平洋側	京都府南部・兵庫県南部・滋賀県南部・奈良県・和歌山県・大阪府
中国地方予報区 (広島地方气象台)	中国地方	岡山・広島・鳥取・島根の各県
	山陰	岡山・広島の各県
	山陽	鳥取・島根の各県
四国地方予報区 (高松地方气象台)	四国地方	香川・愛媛・徳島・高知の各県
九州北部地方予報区 (福岡管区气象台)	九州北部地方(山口県を含む)	山口・福岡・大分・佐賀・熊本・長崎の各県
九州南部地方予報区 (鹿児島地方气象台)	九州南部地方	宮崎・鹿児島島の各県
	九州南部	宮崎県・鹿児島県の本土・種子島・屋久島
	奄美地方	奄美諸島
沖縄地方予報区 (沖縄气象台)	沖縄地方	沖縄県

(2) 全般季節予報電文で用いる予報対象地域名 (広域区分)

予報対象地域名 (広域区分)	予報対象地域に含まれる地方
北日本	北海道地方・東北地方
北日本日本海側 北日本太平洋側	北海道日本海側・北海道オホーツク海側の一部・東北日本海側 北海道太平洋側・北海道オホーツク海側の一部・東北太平洋側
東日本	関東甲信地方・北陸地方・東海地方
東日本日本海側 東日本太平洋側	北陸地方 関東甲信地方・東海地方
西日本	近畿地方・中国地方・四国地方・九州北部地方・九州南部
西日本日本海側 西日本太平洋側	近畿日本海側・山陰・九州北部地方 近畿太平洋側・山陽・四国地方・九州南部
南西諸島	奄美地方・沖縄地方

## 電文例1 地方季節予報（1か月予報）

チホウキセツヨホウ 1 サッポロ

北海道地方□1か月予報▽

← 以下本文

予報期間□12月16日から1月15日▽

平成××年12月15日▽

札幌管区气象台□発表▽

<向こう1か月>▽

<特に注意を要する事項>▽

北海道地方では、11月下旬以降、気温の低い状態が続いていますが、向こう1か月も気温が平年を上回る可能性は小さく、気温の低い状態は当分続▽  
く見込みです。▽

<予想される向こう1か月の天候>▽

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

北海道地方では、向こう1か月はオホーツク海側や太平洋側では平年に比▽  
べて晴れる日が多いでしょう。日本海側の降雪量が多い見込みです。期間の▽  
前半を中心に、全道的に気温は低い見込みです。▽

向こう1か月の気温は低いでしょう。降水量は日本海側では多く、オホ▽  
ーツク海側と太平洋側では平年並か少ない見込みです。日照時間は日本海側で▽  
は少ない見込みですが、オホーツク海側と太平洋側では多いでしょう。日本▽  
海側の降雪量が多いでしょう。▽

週別の気温は1週目と2週目は低く、3～4週目は平年並か低い見込みで▽  
す。▽

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□	平年並□	高・多%▽
1か月□	気温□	北海道地方□	50□	40□	10▽
1か月□	降水量□	北海道日本海側□	10□	30□	60▽
1か月□	降水量□	北海道オホーツク海側□	40□	40□	20▽
1か月□	降水量□	北海道太平洋側□	40□	40□	20▽
1か月□	日照時間□	北海道日本海側□	50□	30□	20▽
1か月□	日照時間□	北海道オホーツク海側□	20□	30□	50▽
1か月□	日照時間□	北海道太平洋側□	10□	30□	60▽
1か月□	降雪量□	北海道日本海側□	10□	30□	60▽

▽

1週目□	気温□	北海道日本海側□	50□	40□	10▽
1週目□	気温□	北海道オホーツク海側□	50□	30□	20▽
1週目□	気温□	北海道太平洋側□	60□	30□	10▽
2週目□	気温□	北海道地方□	50□	40□	10▽
3～4週□	気温□	北海道地方□	40□	40□	20▽

<予報の対象期間>▽

1か月□ : 12月16日(土) ~ 1月15日(月) ▽  
1週目□ : 12月16日(土) ~ 12月22日(金) ▽  
2週目□ : 12月23日(土) ~ 12月29日(金) ▽  
3~4週目□ : 12月30日(土) ~ 1月12日(金) ▽

<次回発表予定等>▽

1か月子報: 毎週金曜日 14時30分 次回は12月22日▽

3か月子報: 12月20日(水) 14時00分▽



## 電文例2 全般季節予報（1か月予報）

セツヨル 1 キョウ

全般□1か月予報▽

← 以下本文

予報期間□2月16日から3月15日▽

平成××年2月15日▽

気象庁□気候・海洋気象部□発表▽

<向こう1か月>▽

<特に注意を要する事項>▽

北日本を中心に、1月上旬以降、気温の低い状態が続いていますが、向こう1か月も気温が平年を上回る可能性は小さく、気温の低い状態は当分続く見込みです。▽

<予想される向こう1か月の天候>▽

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

北日本・東日本・西日本の太平洋側では、平年に比べて晴れる日が多いでしょう。期間の前半を中心に、全国的に気温は低い見込みです。▽

向こう1か月は、平均気温は全国的に低い見込みです。降水量は北日本から西日本の日本海側で平年並か多く、北日本から西日本の太平洋側や南西諸島では平年並みでしょう。日照時間は北日本から西日本の太平洋側の地方で多く、西日本日本海側や南西諸島では平年並でしょう。北日本と東日本の日本海側では平年並か少ない見込みです。降雪量は北日本と東日本の日本海側では多く、西日本日本海側では平年並か多いでしょう。▽

気温は1週目と2週目は全国的に低いでしょう。3～4週目は北日本では平年並みか低い見込みですが、東日本から南西諸島では平年並みでしょう。▽

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□平年並□高・多%▽		
1か月□	気温□	北日本□	60□	30□	10▽
1か月□	気温□	東日本□	50□	40□	10▽
1か月□	気温□	西日本□	50□	30□	20▽
1か月□	気温□	南西諸島□	50□	30□	20▽
1か月□	降水量□	北日本日本海側□	20□	40□	40▽
1か月□	降水量□	北日本太平洋側□	20□	50□	30▽
1か月□	降水量□	東日本日本海側□	20□	40□	40▽
1か月□	降水量□	東日本太平洋側□	30□	50□	20▽
1か月□	降水量□	西日本日本海側□	20□	40□	40▽
1か月□	降水量□	西日本太平洋側□	30□	50□	20▽
1か月□	降水量□	南西諸島□	30□	50□	20▽
1か月□	日照時間□	北日本日本海側□	40□	40□	20▽
1か月□	日照時間□	北日本太平洋側□	10□	40□	50▽
1か月□	日照時間□	東日本日本海側□	40□	40□	20▽
1か月□	日照時間□	東日本太平洋側□	10□	40□	50▽

1か月□	日照時間□	西日本日本海側□	30□	50□	20▽
1か月□	日照時間□	西日本太平洋側□	10□	30□	50▽
1か月□	日照時間□	南西諸島□	20□	50□	30▽
1か月□	降雪量□	北日本日本海側□	10□	40□	50▽
1か月□	降雪量□	東日本日本海側□	20□	30□	50▽
1か月□	降雪量□	西日本日本海側□	20□	40□	40▽

▽

1週目□	気温□	北日本□	60□	30□	10▽
1週目□	気温□	東日本□	50□	40□	10▽
1週目□	気温□	西日本□	50□	30□	20▽
1週目□	気温□	南西諸島□	50□	30□	20▽
2週目□	気温□	北日本□	50□	40□	10▽
2週目□	気温□	東日本□	50□	40□	10▽
2週目□	気温□	西日本□	50□	30□	20▽
2週目□	気温□	南西諸島□	50□	30□	20▽
3～4週□	気温□	北日本□	40□	40□	20▽
3～4週□	気温□	東日本□	30□	50□	20▽
3～4週□	気温□	西日本□	30□	50□	20▽
3～4週□	気温□	南西諸島□	30□	50□	20▽

<予報の対象期間>▽

1か月□	:	2月16日(土)～	3月15日(金)▽
1週目□	:	2月16日(土)～	2月22日(金)▽
2週目□	:	2月23日(土)～	3月1日(金)▽
3～4週目□	:	3月2日(土)～	3月15日(金)▽

<次回発表予定等>▽

1か月子報:	毎週金曜日	14時30分	次回は2月22日▽
3か月子報:	2月20日(水)	14時00分	▽

現行の1か月予報電文例

年月日 1 XXXXX

〇〇〇〇地方 1か月予報

予報期間 ××月××日から××月××日

平成××年××月××日

〇〇管区(地方) 気象台 発表

<向こう1か月>

<確率>

要素	地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)	%
気温	〇〇〇〇地方		20	30	50
降水量	〇〇〇〇地方		40	40	20
日照時間	〇〇〇〇地方		20	30	50

<概要>

向こう1か月の平均気温は高い可能性が大きく、その確率は50%です。  
降水量は平年並か少ない可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。  
日照時間は多い可能性が大きく、その確率は50%です。

<可能性の大きな天気経過>

	要素	地域	階級
1週目	気温	〇〇〇〇地方	0
2週目	気温	〇〇〇〇地方	+
3~4週目	気温	〇〇〇〇地方	0

<天候の特徴>

平年に比べ、晴れる日が多い見込みです。

<次回発表予定>

1か月予報：毎週金曜日 ××時××分 次回は××月××日

3か月予報：××月××日(×曜日) ××時××分

平成13年9月5日  
気象庁気候・海洋気象部

## 訂正のお知らせ

(配信資料に関する技術情報第91号関連)

先に「配信資料に関する技術情報第91号」でお知らせしました、平成14年3月から変更を予定している1か月予報の電文形式について、添付の解説資料に誤りがありましたので、以下のとおり訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
「別紙」4.(8) 確率行の項	ただし、要素名は気温・降水量・日照時間・降雪量のいずれかを、予報対象期間は、1か月・1週目・2週目・3～4週目のいずれかを用いる。	ただし、期間名には「1か月」・「1週目」・「2週目」・「3～4週」のいずれかを用い、要素名は「気温」・「降水量」・「日照時間」・「降雪量」のいずれかを用いる。
「別表」(1) 予報対象地域名	東北地方日本海側	東北日本海側
	東北地方太平洋側	東北太平洋側
	山陰	山陽
	山陽	山陰

「別紙」の4.(8)および(9)項を整理すると、電文において第3～4週目は、例にも示されているように、〈予報対象期間〉では「3～4週目」と表記されますが、〈確率〉の部分では「3～4週」と略記されることとなります。

また、「別表」(1)の予報対象地域名には単純な表記ミスがありました。

利用者の皆様には、大変お手数をお掛けしますが、お手元の資料の訂正をお願いいたします。